なっとくんの

なるほどなっとくニュース

山口県立山口博物館　学校地域連携担当
2017年　8月13日　No.188

なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館ホームページでダウンロードすることができます。

Community Museum 地域の宝 学校の宝

セメント町という地名がある山陽小野田市

出前授業で訪れた厚陽小学校や厚狭図書館のある山陽小野田市は、セメントを中心とした工業で発展した市です。そのさきがけとなった人物が笠井順八です。長州藩士の家に生まれ、明倫館に学びました。優秀な成績でしたが、家柄による差別を嫌い、退学して独学で学びました。藩の財政や土木の仕事を行い、維新後も山口県の産業発展につくしました。その後、士族の救済とセメントの国産化を目指し、セメント製造会社を設立しました。また、公共事業を進め、地域の発展に貢献しました。セメント工業については、山陽小野田市歴史民俗資料館で学ぶことが出来ます。また、化学工業で薬品を入れるのに使われた容器「硫酸瓶」の製造に、「旦」の登り窯が関係しますが、窯を開くのに幕末の志士、前原一誠の父佐世彦七が支援しています。　参考文献『笠井順八翁とその時代』川野豊彦

笠井順八翁像
3mセメント像（若山公園）

徳利窯（とっくりがま）
最初のセメント焼成竪窯

↑「旦」の登り窯

前原一誠旧宅址

山陽小野田市出身で幕末に活躍した人物に、来島又兵衛(1817~1864)がいます。厚狭郡西高泊村（現在高須）の喜多村家に生まれ、幼少の頃から近所の子どもを集めて竹槍遊びに熱中していました。長門市俵山の来島家に婿養子として入り、美祢市西厚保町に新居を構えます。1863年に、藩の命令により猟師を集めた狙撃隊を率いて京都に入りますが、八月十八日の政変で長州藩は、京都から追放されてしまいます。萩に戻ると、高杉晋作が創設した奇兵隊に影響されて、遊撃隊を組織し総督として国事にあたりました。1864年に長州藩は京都での勢力を取り戻すために、軍隊を京都に向かわせます。又兵衛は先祖からの甲冑を身に着け、遊撃隊６００名の兵を率いて戦いました。京都の御所での大きな戦いとなった禁門の変で、敵対した薩摩藩兵の狙撃で胸を撃ちぬかれ、自ら命を絶ちました。長州藩はこの戦いの後、一度討幕運動から離れますが、高杉晋作らの働きにより倒幕の中心的役割を果たすこととなります。

参考文献『来嶋又兵衛傳』三原清堯

来島又兵衛肖像
部分（山口博物館蔵）

来島又兵衛誕生の地
（山陽小野田市高須）

来島又兵衛の碑
（山口市亀山町）
山口サビエル記念聖堂前

山口博物館では、来嶋又兵衛肖像を収蔵しています。ホームページで高画質画像が見られます。